

県北の悲願「大館能代空港」 新規事業に格上げ

市議会9月定例会行政報告

市街地整備に計画委

市議会九月定例会が招集された九月七日、小畑市長が行政報告をしました。その中から、主なものの要旨をお伝えします。なお今定例会で審議された案件等については、次号でお知らせします。

大館能代空港に

ついて

去る八月二十四日に開かれた運輸省空港整備計画検討委員会で、大館能代空港の「新規事業」

格上げが決定されました。これに伴い五年度の運輸省の概算要求に実施設計調査費として五千万円が盛り込まれました。

大館能代空港は三年十一月、「びわこ」「静岡」「神戸」「小笠原」「新石垣」の五空港とともに国の第六次空港整備五カ年計画の予定事業に組み入れられました。



行政報告をする小畑市長

各所でそれぞれ運動を展開してきましたが、今回、新規事業に格上げされたのは大館能代空港だけです。しかも、予定事業に組み入れられてから、わずか九カ月足らずという異例の早さでした。

これは、アクセス整備や用地買収への取り組み、関係機関への陳情など、地域住民一丸となった運動が実を結んだものです。

また、七月には全日空とエア・ニッポンが、八月には日本エアシステムが空港建設予定地を視察に訪れました。各社とも就航に積極的な姿勢をみせており、開港への好材料といえます。

このように県北三十万人の悲願、空港が実現に向けて大きく、また着実に前進していることを大変喜ばしく思っています。

今後は、来年度予算案編成での大蔵省査定が当面の関門となる



市役所に張り出された横断幕

市長リポート



No.29

道路網整備マップ

市では、道路網の整備を図るため二つの地図をつくりました。一つは、高速交通網や周辺地域とのネットワークづくりを視野に置いた「大館北鹿周辺図」。

もう一つは、市内の国道や県道、農道などを一枚にまとめた「大館市道路網図」です。いずれも、これからの整備のための重要な資料です。

道路網整備については、やるべきことが数多くあります。特に、市内の渋滞解消は急務です。工事が進む高規格道・大館西道路はまず側道を開通させ、国道103号南バイパスと市道東バイパスは一部供用を早く実現させることで、順次渋滞を解消したいと考えています。

また、日本海沿岸自動車道・大館―小坂間の整備計画路線への格上げ、同大館―能代間の基本計画路線への格上げなども急がなければなりません。今回作った地図を十分に活用し、より便利で快適な道路網を国や県と協力して整備していきます。

小畑 元